

●石川県金沢大学教育学部附属小学校

2色印刷で工夫する楽しさを味わう。 日刊「学級だより」発行のきっかけにも。

2色デジタル印刷機が導入されて3年。金沢大学教育学部附属小学校では、ワークシートやテスト問題、学級だよりなど、多方面で2色印刷が活用されていますが、今回は、印刷機の導入が日刊の学級だより発行のきっかけになった事例を中心にレポートします。

2色は工夫の楽しさが

金沢大学教育学部附属小学校（井原良訓校長）は明治7年に開校した伝統ある小学校。651名の児童が学んでいます。

同校に、2色デジタル印刷機が導入されて、3年がたちます。この間、学級だよりやワークシート、テスト問題などに2色デジタル印刷機が活用されてきました。

これまで、すでに転任した荒木泰彦先生（現・市立東浅川小学校）や谷本克典先生（現・市立押野小学校）などが、左ページの実例サンプルに見られるような通信類やワークシートに2色印刷を活用してきました。荒木先生は第2回『育て！プリントコミュニケーション』コンクールに、「学級通信」で応募。佳作入賞しています。

現在では、八崎和美先生（6年生担任・情報担当）、戸田真実先生（5年生担任）が中心となって、教材などへの2色印刷の活用に取り組んでいます。

工夫すると思えますね。教員にとって、それがまず大きな効果かと思えます」

と八崎先生は言いますが、とりわけ戸田先生にとつては、まさに2色デジタル印刷機の導入が、印刷物への対応を変えるきっかけになりました。

日刊の学級だよりを出す きっかけに

現在、学級だよりに2色印刷を採り入れ、毎日発行している戸田先生。第1号を発行したのは、3年前に2色デジタル印刷機が導入されたときですが、実はこのときまで通信づくりには、まったく言っていないほど、手をつけていませんでした。

このとき戸田先生が、初めて学級だよりを発行しようとした動機は、二つあります。

一つは保護者との信頼の構築です。「特に問題があったからではありま

せん。3年前、持ち上がりで同じクラスを担任することになったのです。それで、保護者とのコミュニケーションをより密にして、信頼をもつと獲得したい、そのためにクラスの様子を、詳しく知らせたいと考えたのです」

そしてもう一つは、「新しく入った2色デジタル印刷機のをよさを学級だよりで試したい」という好奇心でした。

紙面の大きさも、「小さなスペースなら、毎日、埋められやすい。長続きする」とB5判に決めました。こうして初年度「Hope」、昨年度「Heart」、今年度は「Signs」と名づけられた学級だよりが、欠かさず、保護者のもとに届けられることになったのです。



八崎和美先生（右）と戸田真実先生



戸田先生による昨年度の学級通信



戸田先生による今年度の学級通信



学級通信



複式学級学級通信



ワークシート類

タイトルの色を日替わりに

戸田先生の学級だよりはサンプルで見るとおり、写真を大きめに使い、ときに子どものノートや日記（同校では3年生以上は毎日書く）などスキャンして採り入れ、適宜文章を入れるというもの。写真は授業の様子が主。板書も読者が分かるように大きく扱います。「授業中もデジカメを首に下げ、これと思うときに撮ります。どの写真を入れるか決まれば、文章の内容も決まりますから、日刊も苦ではありません。文章は、授業の意図やこういう子どもに育ってほしいという私の願いを書いています」（戸田先生）

色はタイトルや強調したい部分に使用。タイトルの色は日替わりで、赤、青、緑を交互に。

「以前は文中にも色を使いましたが、いまは見出しなど、すぐに伝えたいことに限定して使っています。保護者対象ですが、子どもたちも楽しみにしながら読んでいくようです」

と戸田先生。昨年は「授業の様子と先生の考えがよく分かる。これが今年1年の財産です」と保護者から反応があったといいます。

学級だより以外でも、同校では、「いま算数、音楽、理科などの教科別に、子どもの答案添削と考え方などに、2色印刷を活用する試みが始まっています」（八崎先生）とのことでした。



金沢大学教育学部附属小学校